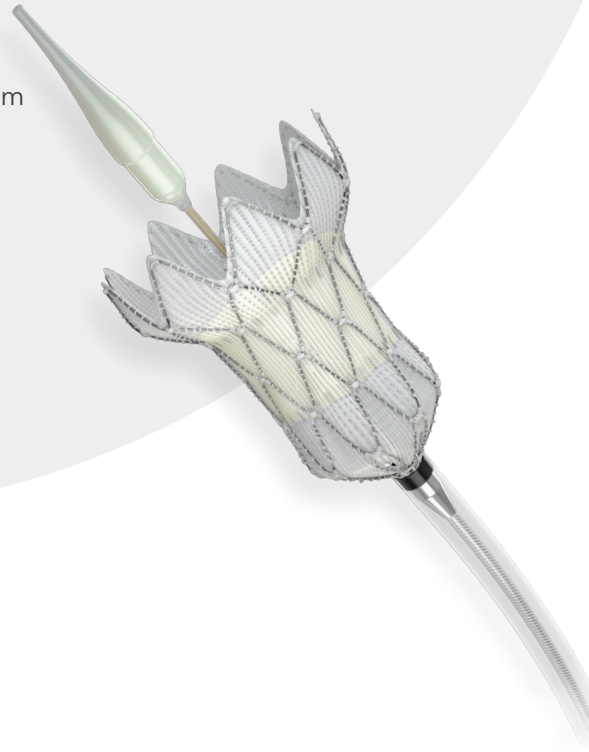
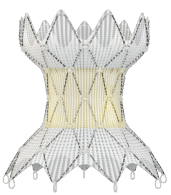
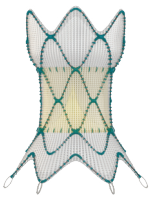
Medtronic

CTデータ取得
クイックリファレンスガイド

Harmony™
transcatheter pulmonary valve system







レトロスペクティブスキャン
推奨パラメーター

CTデータは少なくとも2年以内に撮影されたものであること

ヨード造影剤の静注	80-100 mL（320mg/mL 以上）
注入速度	4-6 mL/sec
ボーラストラッキング，ディレイ（delay）	施設の基準がない場合→撮影中の主肺動脈のコントラスト濃度のピークで、現在のスキャナーのプロトコル（ボーラストラッキングなど）を使用して計算されたdelay timeを推奨
心電図誘導	必要
心電図同期	レトロスペクティブ
スキャン方向	Cranial-caudal
スキャン範囲	大動脈弓中部からRVOTの下の右室中部まで
検出器コリメーション	0.6 mm
ピッチ	心拍に合わせて0.2-0.43
ドーズモデュレーション	レトロスペクティブスキャンにて、心周期の30から90%は全線量、他は低線量
スライス厚	< 1 mm
スライスオーバーラップ	0.4 mm
再構成カーネル	心臓のカーネル：施設毎に冠動脈CTAに使われているものと同じカーネルを使用
イメージマトリックス	512 × 512 ピクセル
後処理	レトロスペクティブスキャンにて、モーションアーチファクトを最小限に抑えるレトロスペクティブ心電図同期再構成アルゴリズムを使用。複数の位相で再構成（R-R間隔の0-90%を最大10%刻みで）

CT撮影 5ステップ

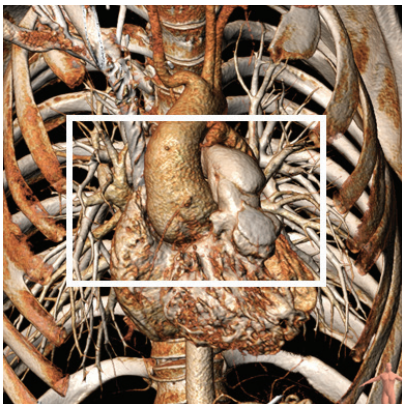
1 レトロスペクティブ心電図同期スキャン：

重要な位相：収縮末期および拡張末期（多くは心周期の30%および90%位相）

*拡張末期（多くは心周期の90%位相）におけるサイジングが重要

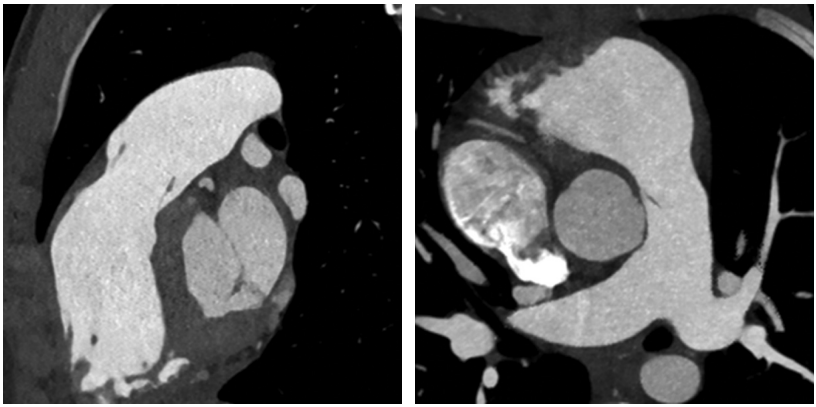
2 FOV（Field of view）：

- 大動脈弓中部（分枝肺動脈を含む）から右室中部（RVOTの下）までの範囲
- 少なくとも右室に3cm、左右の肺動脈に3cmを含む



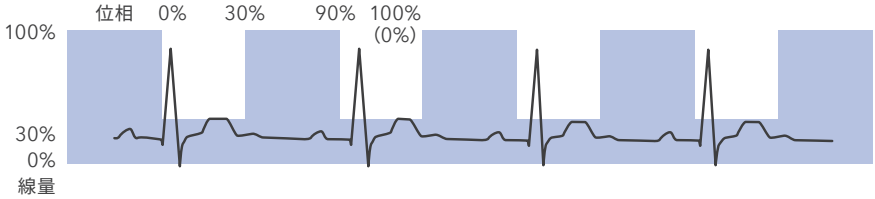
3 ボーラスタイミング：

撮影中の主肺動脈のピークコントラスト



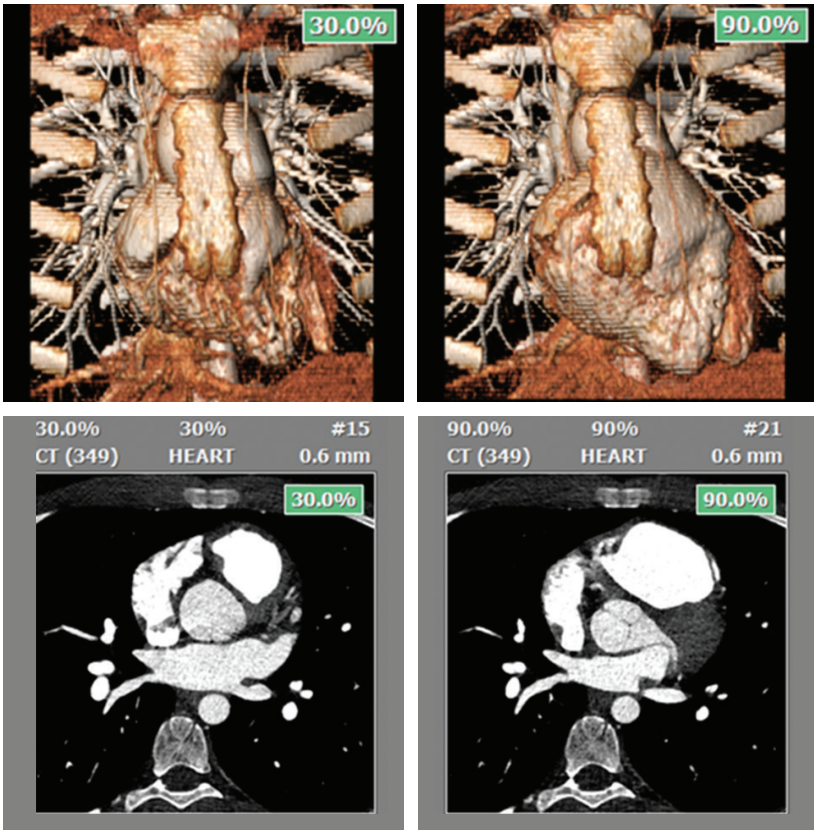
4 ドーズモデュレーション：

- 患者さんの被ばくを低減するため、心周期の重要な部分の間のみ全線量を使用する
- レトロスペクティブスキャンにて、収縮末期から拡張末期（多くは心周期の30%から90%位相）の間を全線量とする



5 再構成時の必要事項：

- Harmony™ の患者スクリーニングには少なくとも収縮末期および拡張末期（多くは心周期の30%および90%位相）の再構成画像の提出が必要
- 再構成スライス厚＜1mm
- 不整脈の編集または除去
- 10%刻みの0 - 90%で再構成された全心周期が望ましい
- 正しい心位相でラベル付けされた再構成画像であることを確認



Medtronic

日本メドトロニック株式会社
ストラクチャルハート
〒108-0075 東京都港区港南1-2-70

medtronic.co.jp

製造販売元：日本メドトロニック株式会社
一般的名称：経カテーテルブタ心のう膜弁
販売名：Harmony 経カテーテル肺動脈弁システム
医療機器承認番号：30300BZX00235000

使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意等の情報につきましては製品の電子添文をご参照ください。
© 2021, 2022 Medtronic. Medtronic、メドトロニック、及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。
TMを付記した商標は、Medtronic companyの商標です。
TAVR-289.1.0 CBT2109002b 22/06 2000